子育てのエッセンス

大津市こども発達相談センター

◇「気になる子どもの姿」として多いもの

・落ち着きがない　・学習意欲が乏しい　・体調不調を訴えることが多い　・すぐにきれる
・指示を聞いていない　・身の回りの管理ができない　・友達とのトラブルが多い　・学校に行きたがらない

「できない」「しない」とまわりからみられることが続くと、自分に対する評価は「どうせボク（ワタシ）なんか」と思いやすく、周りに対する感情も「皆わかってくれない、敵だ」と感じてしまいます。

◇子どもから見た集団生活

集団生活の中で、自分をどう発揮するか、自分の居場所をどう位置づければよいのかが定まらないと、それに伴う不安定さが「気になる姿」として表れやすいといわれています。

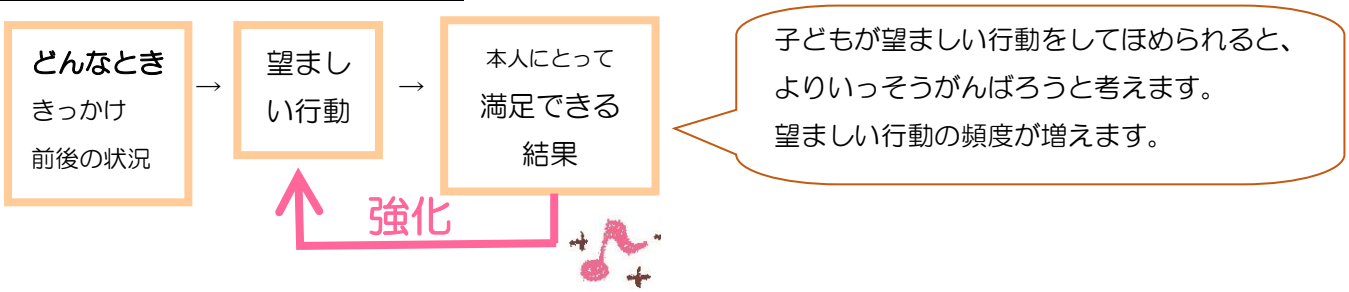
◇子どもの行動を観察しましょう

「気になる姿」には必ず、**子どもなりの理由やきっかけがあります。**前後の状況、周りとの関係性、それ以外の場面での子どもの様子など、見渡すと見えてくることがあります。観察する＝注目する＝子どものことを理解するチャンスです。

★行動を３つにわけて考える

	例	行動への対応
１．望ましい行動	朝おはようと挨拶する、夕食の準備を手伝う	褒める
２．困った行動	兄弟のおもちゃをとる、服をぬぎっぱなしにする、ふざけて大声で騒ぐ	目標行動に置きかえてそれができたら褒める
３．許しがたい行動	友達をけがさせる	わかりやすい指示と事前の工夫

◇望ましい行動は強化しよう



◇困った行動への対応

①まずは「ほめる」ための努力をしましょう。小さなことでも「望ましい行動・変化」、「困った行動のない時」に注目します。

②「望ましい行動」が起こりやすく「困った行動」が起こりにくいように子どもの周りの環境を工夫しましょう。部屋や机上の環境、指示の出し方等、子どもにとって「いつ、何を、どのようにすればいいのかわかりやすい」工夫や「少し頑張れば実行しやすい」工夫を考えましょう。

◇わかりやすい指示の出し方

①前もって予告　『あと５分でタご飯だよ、テレビを消そう』

②子どもの注意を引いて　③視線をあわせて　④指示は短く　具体的に

⑤口調はきっぱり　落ち着いた感じで

⑥絵や写真を使うことも効果的

⑦どんな小さなことでも子どもがやろうとした時はすぐにほめる

◇「ほめる」行動の見つけ方

★25%ルール★

最後までパーフェクトにできなくても、ほんの少しでもできていることを見つけましょう。

例）パジャマをひとりで着替える

⇒取りに行ったらほめる

⇒ズボンを脱ごうとしたらほめる

⇒足を通したらほめる

◇環境調整

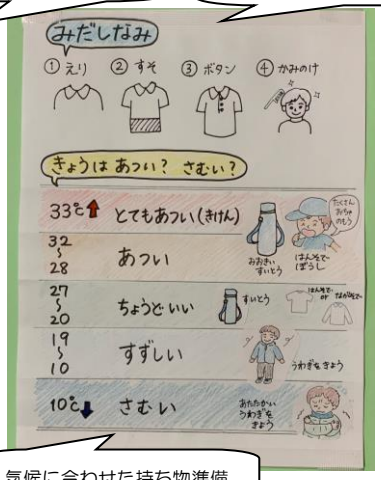
子どもは、環境からの影響をうけやすいものです。
よって、望ましい行動を増やしたり、困った行動を減らすために子どもの周りの環境を工夫することは有用です。

ルールをわかりやすく伝える（例）

何をどこに片付けるかわかりやすく

持ち帰り忘れを防ぐためのチェック表

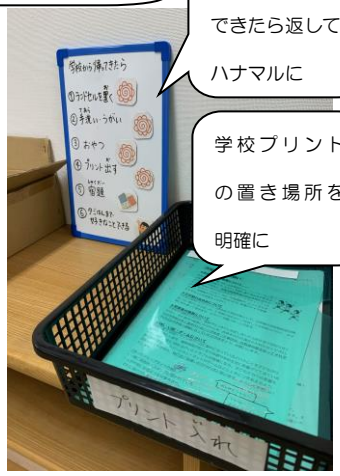
家を出る前に身だしなみをチェック



気候に合わせた持ち物準備

やることリストできたら返してハナマルに

学校プリントの置き場所を明確に



◇発達を支援するということ～「できるようになりたい」を支えたい～

「できるようになる」ことに目標を置くよりも、「できるようになる」までの**プロセスを丁寧に支える**ことが大切です。それは、子どもの発達特性と発達段階を踏まえた上で、「できるようになりたい」という**主体的な気持ちを育む**ことです。

★その子らしさを認める
★取り組みやすいように教える、支える
★取り組みやすいように環境を整える、かかわりを工夫する
★周りの大人が認識を共有する（連絡連携）

子どもへの対応で大切なこと

〇子どもの考えや意見に耳を傾ける
〇子どもの心の動きを想像する
　うまく伝えられない子どものさまざまな言動を手がかりに、子どもの考えや気持を読み取る努力をしましょう
〇関係作りの大切さ
　日ごろから言葉や気持ちのやりとりを大切にする。話しやすい雰囲気を提供する。

こども発達相談センター
ホームページはこちら